

パネルディスカッション

「領域『表現』を軸に子どもの音楽に関わる表現指導を養成校の立場から考える」

企画・司会：二宮紀子（十文字学園女子大学）

パネラー：赤津裕子（竹早教員保育士養成所）、長谷川恭子（秋草学園短期大学）、
駒久美子（千葉大学）

指定討論者：三沢大樹（東海大学）、伊集院理子氏（十文字女子大附属幼稚園 園長）

【企画趣旨】

二宮 紀子（十文字学園女子大学）

領域が「表現」になり、〈教科に関わる科目〉が〈領域に関する専門的事項〉になって、保育者養成校の音楽に関わる授業内容も、学生の音楽表現に必要な基本的な理論や表現技術の習得、子ども達への指導法というよりは、創造的な音楽活動を共に展開するといった内容にシフトしてきました。それは、子どもの表現とは音楽といった一表現分野だけに限られず、音、色、形、言葉や身体の動きなど様々な表現分野に関わる要素が混然一体となって現れるものであること、生活や遊びの中に現れる主体的な表現であることを重視した結果でした。ですが一方で、子どもが歌を歌ったり、楽器を演奏したりするという音楽的要素が強く現れる表現活動は存在しています。幼小連携の観点からはここが音楽という教科に結び付いていくところでしょう。この辺りを私達はどのように考え捉えたらよいのでしょうか。

何をどう教えるのかという視点にとどまらず、領域「表現」に見られる子ども理解に則って、保育者として求められる音楽的力とは何か、そのために必要な養成校での指導内容とは何かということを皆さんと考えたいと思います。本パネルディスカッションでは、パネラーがそれぞれの所属校で実践している「保育内容の指導法（表現）」の実践例をもとに、どのように子どもの音楽表現を捉え、どのような力を学生につけてほしいと考えているか話題提供をしていただき、さらにこうした「保育内容の指導法（表現）」の授業を行うに当たって、弾き歌いやピアノ、歌唱といった授業をどのように行っているのか、あるいは『領域に関する専門的事項』として、どのような授業を置いているのか、あるいは「保育内容の指導法（表現）」以外に発展的に行われる授業があるのかなどについても、カリキュラムマップを下敷きに、話題提供をしていただきます。

また、指定討論者の三沢先生には幼小連携の立場から、就学前の子どもの音楽に関わる表現能力をどのように考えるのか、就学前の子どもにはどのような経験をつんでおいてほしいかについて、前日の講演者、伊集院理子先生には、養成校に望むことについてご意見をいただきます。

【話題提供 1】

赤津 裕子（竹早教員保育士養成所）

本校は幼稚園教諭と保育士の2つの資格を取得できる2年制の保育者養成校です。

さて、領域「表現」が求める子どもの姿とは、先ず、自由に安心して表現できること、そしていろいろな体験を通して表現方法の幅を広げ、表現が豊かになっていくことであると考えます。そのためには、子どもの表現を理解することといろいろな経験を構成していく力が求められると考えます。

今回の話題提供では、領域に関する専門的事項「子どもと表現」から「子どもの劇活動を考える」授業、そして「表現指導法」と「保育・教職実践演習」とのタイアップによる「ミニプログラムの企画・立案・

実施」の取り組みについて紹介します。特に後者は2年間の集大成として位置付けています。子どもの発達や子ども理解についての理論的な学びと実習での実践的な経験、そして2年間の実技の成果が総合的な形で表れる活動であると考えます。フロアの皆様とは、子どもの表現を理解し、保育を構想する保育者を育てるために養成段階でどのような経験が必要かについて一緒に考えたいと思っております。

【話題提供2】

長谷川 恭子(秋草学園短期大学)

本学は二学科の保育者養成課程を設置しています。幼児教育学科(2年制・昼間部、3年制・夜間部)は保育士資格と幼稚園教諭二種、地域保育学科(3年制・昼間部)は保育士資格と幼稚園教諭二種に加え、選択で児童厚生2級指導員資格が取得できます。

「保育の内容・方法に関する科目」のうち、「音楽・身体表現」は幼稚園および保育所の前期実習より前、「音楽・身体表現(指導法)」は後期実習より前に履修します。「音楽・身体表現」では、音楽担当と身体表現担当が各専門分野の指導を6回ずつ行い、3回は合同で総合的に表現に取り組んでいます。専門分野の指導部分の「音楽」では、音や音楽を通したコミュニケーションの大切さを重視した授業を展開しています。「音楽・身体表現(指導法)」では、音楽についてはわらべうた遊びを教材として指導案を立案し、模擬保育を行います。わらべうた遊びを扱うのは、音楽的な感性の育成だけではなく、主活動から子どもの生活の中に発展していくことで子どもの〈育ち〉に目を向けることをねらいとしているからです。

この話題提供を通して、音楽を通して子どもの〈育ち〉を支えていく保育者の育成をどのように行なっていくと良いか、皆様からご意見を戴ければと考えています。

【話題提供3】

駒 久美子(千葉大学)

本学の乳幼児教育コースでは、幼稚園教諭一種免許と小学校教諭二種免許取得を卒業要件とし、ほぼ全員が1年次より保育士養成課程を履修し、保育士資格の取得も目指しています。そのため、コース全員が同じカリキュラムで学ぶこととなります。

教科に関する専門的事項として1年次前期に開講される「小学校音楽⑨」で、音楽の基礎的な知識・技能を身に付け、1年次後期に開講される領域に関する専門的事項の「子どもと表現Ⅰ(音楽表現)」で、学生自身が表現する楽しさを味わいながら、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成等について、実践を通して身に付けられるようになっていきます。こうした1年次のカリキュラムをふまえ、2年次前期には、保育内容の指導法として「保育内容『表現』の指導法」を展開し、子どもが遊びのなかで何をどのように学ぶのか、実際の事例を通して理解を深めており、音楽表現から表現教育全体への連続性を意識しています。

今回の話題提供では、「いつでも・どこでも・だれでも」をキーワードに、すべての子どもの表現を支えるために、保育者養成において何をどのように指導したら良いのか、フロアの皆様とともに検討していきたいと思っております。